

プランタンの活字について

名古屋大学教養部・
総合言語センター図書室

中井 えり子

1. プランタンと印刷所

クリストフ・プランタン (Christoph Plantin, c.1520-1589) は、神聖ローマ帝国時代のネーデルランドの印刷家で、16世紀後半にはヨーロッパ最大の印刷所を経営し、1570年にはスペインの王室筆頭御用印刷師となる。人文主義印刷者の一人。フランスのトゥール出身といわれ、1555年にアントワープに印刷所を開く。彼の印刷者マークはいくつかのヴァリエーションはあるが、1557年に採用した「不動と労働によって」(Constantia et Labore) をモットーとする美しいマークで有名である(図1)。1555年から1589年における出版物は2000点以上あり、代表的な書物の一つに「欽定多国語対訳聖書」(Biblia regia, or Biblia polyglotta. 1572) があるが、辞典類、地図、科学書、エンブレム・ブック¹⁾、古典、宗教書を数多く手掛けた。プランタン印刷所の最盛期には22台の印刷機と200人に及ぶ職人をかかえていたという²⁾。印刷所はプランタンの死後、約300年の間、後継者に引き継がれ、エドワード・モレトゥス (Edward Moretus, 1804-1880) の時に閉鎖された(1876年)³⁾。この年に印刷設備を含めて、アントワープ市が印刷所を買取り、翌1877年より現在に至るまで「プランタン・モレトゥス博物館」として公開している。

2. プランタンの時代

プランタンがアントワープに印刷所を開いた頃は、活版印刷術が発明されてほぼ1世紀がたち、イタリア・ルネサンスもヨーロッパ全域に行き渡り、各地の商業都市が経済的発

展をみせていた。アントワープも商業・金融の中心地で、自由都市の性格を帯びていたのである。大学こそなかったが、印刷業も栄え、J. マレーによると、16世紀前半でアントワープ市はネーデルランドの出版物の半数以上を印刷しており、16世紀半ばには97人の印刷家が在住していた⁴⁾。

1517年ドイツに端を発した宗教改革がヨーロッパ全域でおこり、トリエントの宗教会議(1545年から63年の間に3回開かれた)で、ローマ・カトリック教会がかるうじてその威厳を保つことで一応終結する。ルネサンスと宗教改革の影響を受けて、識字率も上がり、印刷物の量は急増したが、プランタンや当時の印刷家は、宗教問題で、教会と国家の板挟みとなり、自由な活動が妨げられるのである⁵⁾。

さらに印刷界に焦点をあててみる。15世紀半ばにマインツのゲーテンベルクがテキストウーラ体⁶⁾で「42行聖書」を印刷して以来半世紀ほど続いたインキュナブラ時代も、イタリアのマヌティウス (Aldus Manutius, 1450-1515) が1501年にイタリアック体を完成させたのをもって終りとなり、さらにフランス人のジャンソン (Nicholas Jenson, 1420-1480) が完成させたローマン体もマヌティウスのイタリアック体も、16世紀前半にはフランスのガラモン (後述) やグランジョン (後述) のローマン体やイタリアック体にとってかわられるのである。つまり、トリー (Geofroy Tory, 1480-1533) の「万華園」(“Champ Fleury” Paris, 1529) に代表されるように、写本の字体の模倣から脱出し活字の芸術性が追及される時代になっていた。出版界では既に分業

が行われ、活字の父型を彫刻する人や活字を鑄造する人、印刷家や製本家等は別々であることが多かった。プランタンと同時代の、あるいは若干前後する印刷家には、イタリアのパウルス・マヌティウス(Paulus Manutius, 1511-74, アルドゥスの末子)、イングランドのジョン・デイ(John Day, 1522-84)⁷⁾、フランクフルトのファイアーアーベント(Sigmund Feyerabend, 1528-90)、パリのエチエンヌ(Robert Estienne, 1503?-59)、ライデンのエルゼヴィア(Louis Elsevir, 1540?-1617)達が活躍していた。ドイツで生まれた印刷術は、イタリアで成長し、フランスで円熟したのである。そして今やネーデルランドで印刷が栄えようとしていた。

3. プランタンが用いた書体

(1) 調査の方法

プランタンの印刷物に使用された書体にはどのようなものがあるかを調べるのに、印刷物を全部集めて比較検討する方法も考えられるが、印刷物の収集と書体の識別能力の点でまず不可能である。幸いなことに、プランタンの場合、いくつかの活字見本帖や活字の父型や母型の在庫目録や実物が残っている。そのうえ、活字見本帖は複製されており、在庫目録や父型・母型について近年研究されているため、これら突き合わせれば、ある程度の実態がわかる。それらの文献は以下のとおりである。詳細な書誌事項は本稿末尾の選択解題書誌に掲載したのでここでは省略する。

活字見本帖

1. Index sive specimen characterum
Christophori Plantini 1567
(以後“Index 1567”と略す)
2. Plantin's folio specimen c. 1585
(以後“Folio c.1585”と略す)

在庫目録

3. Inventory of the Plantin-Moretus
Museum punches matrices
(以後“Inv. PM”と略す)

4. Typographica Plantiniana II. Early inventories of punches, matrices, and moulds in the Plantin-Moretus Archives (以後“Early Inv.”と略す)

その他

5. Vervliet の“Sixteenth-century printing types of the low countries”
(以後“Vervliet, Printing Types”と略す)

以上の資料には活字の名称がついていなかったり、ついていても不統一だったりするが、プランタン-モレトゥス博物館に所蔵されている父型や母型⁸⁾にはST32, MA20cというように一貫した番号が与えられ、どの資料にもこの番号が記載されている。従って活字の識別は同一の父型・母型を用いているか否かによった。ただし同じ字体でもサイズ⁹⁾の異なるものは別個の活字とみなした。もっともこれらの資料に載っている活字全部をプランタンが用いたとは限らないので、彼が使用したと明記されている活字を抽出した。また文字はラテン・アルファベットに限定し、ギリシャ文字、ヘブライ文字、楽譜、縁飾りなどは対象からはずした。活字の名称が上記の資料中異なる名称が用いられてる場合は、資料の掲載順位を名称採用の優先順位とした。“Index 1567”については解題につけられている名称を採用した。

(2) 調査結果

結果を述べる前に簡単に低地帯諸国における16世紀の書体について言及しておく。厳密に書体を分類することは難しいが、ラテン・アルファベットは大きくローマン体とゴシック体に分けることができる。それぞれの形態的な特徴や使用された地域などによって、さらに細分できるのであるが、ここでは“Inv. PM”で用いている四つの分類、即ち、ローマン体、イタリック体、ブラック・レター、スクリプト体を採用した。前者二つがローマン体、後者二つがゴシック体である。印刷活字における書体の変遷については若干前にも

述べたが、低地帯諸国でも、プランタンの時代にはゴシック体は特定の用途に限って用いられるようになり、それもドイツとは異なった種類のゴシック体が使用された。つまり、フラクトゥーア体¹⁰⁾ではなく、ほぼ同時代にイングランドで用いられたのと同種のテキストゥーラ体だった¹¹⁾。ローマン体とゴシック体の使い分けは、人文主義的な書物はローマン体を、典礼用の書物や自国語で書かれた書物にはゴシック体を用いる傾向が強かった¹²⁾。低地帯諸国ではローマン体は1483年頃に、イタリック体は1522年に初めて採用され、両書体とも1530年頃にはオランダ語を除く近代言語に、1539年頃にはオランダ語にも用いられるようになったのである。

さて、プランタンが用いた書体はどのようなものであったか。前項の方法で採集した結果を(表1)にその書体別、父型作成者別に表したが、ローマン体が59種類、ゴシック体が26種類の計85種類が確認できた。個々の書体の名称、父型彫刻師名、プランタンの印刷物中で初出のものとその刊年等は本稿末尾に付録として掲げた。

書体 父型作成者	Roman	Italic	Black Letter	Script	合計
Guyot	2	2	1	0	5
Granjon	7	15	0	4	26
Garamont	8	0	0	0	8
Haultin	4	1	0	1	6
Tavernier	4	2	2	0	8
Keere	10	0	12	0	22
その他	0	0	1	0	1
不明	3	1	5	0	9
合計	38	21	21	5	85

(表1) 書体別、父型作成者別点数一覧

父型作成者のうち、グランジョン(Robert Granjon, c.1513-89)、ガラモン(Claude Garamont, c.1480-1561)、オータン(Pierre Haultin, ?-1587?)はフランス人である。ギヨ(François Guyot, ?-1570)とタフェルニエ(Amelet Tavernier, 1522?-70)はフランスの出身ではあるが、アントワープで活躍した。キーレ(Hendrick van den Keere, c.1540-80。仏語名 Henri du Tour)

はゼントの出身である。

ギヨは1539年以降アントワープに在住し、彼の鋳造所はプランタンの専属であった。フォルジャー・シェイクスピア図書館が所蔵する1565年頃の活字見本帖¹³⁾(図2)は、ギヨのものであり、活字鋳造者が作った最初の見本帖である。この中にはプランタンが使用したローマン体が2つ、イタリック体2つが含まれている。この見本帖は欄外に英語で母型の価格が記されていることから、イングランドへ売るためのものであったようだ。事実イングランドではジョン・デイらによって17世紀後半まで一般的に用いられるのである(図3)。これらの活字はフランスを除くヨーロッパ各地で見られ、さらにポルトガルのイエズス会使節団が日本にももたらした¹⁴⁾。また17世紀のロサンゼルスでも見られる(“Vervliet, Printing Types” p.249)。ただプランタンはこれらのローマン体もイタリック体も次第にグランジョンの書体にかえてしまう。

そのグランジョンはパリ生まれの印刷家、活字意匠家、父型彫刻師であるが、パリ、リヨン、アントワープ、フィレンツェ、ローマで仕事をした。1557年に初めてシヴィリテ体¹⁵⁾を用いて印刷したことで知られる。アントワープには1563-70年の間滞在したようで、プランタンは彼の活字を多く用いている。グランジョンのローマン体はヨーロッパ中에서도17世紀に入っても用いられた。例えば、プランタンが用いた彼のローマン体7つのうち、3つがプランタンの注文で作られたのであるが、“Index 1567”に掲載されている2-line Pica Capitals(約40ポイント)やPetit Canon Romain(27ポイント)は1560年代にプランタンが使い始めたローマン体(図4)であるが、17世紀のパリ王立印刷所、J. E. ルター、エルゼヴィア未亡人等の活字見本帖にみられ、最も新しいものは18世紀後半の見本帖にまで至る¹⁶⁾。また1572年のプランタンの在庫目録(“Early Inv.” p.37)にあるAscendonica Romaine(20ポイント)は1628

年のヴァチカンの活字見本帖にもみえる。グランジョンの最も著しい業績はイタリック体のデザインにある。ただ面白いことに、イタリック体については、グランジョンが彫ったとされている18書体のうち、プランタンは15も使用しているが、プランタンの注文で作られたのは3書体（Ascendonica Cursive, Philosophie cursive, Colineus Italique poetique）でいずれも後の活字見本帖には出現していないようだ。AscendonicaとColineus Italique poetiqueはプランタン以外に使用されている例もみつかっていない。これらの3書体にはグランジョンが作ったほぼ同サイズの書体が別に存在し、それらは後の見本帖に数多く見られ、プランタンは母型も持っており、よく使用しているのである。ただプランタンが注文したイタリック体はAscendonicaを除いて、字幅が狭く、わずかしか傾斜していないのが特徴である。この種のイタリック体でプランタンが用いた書体にLitiera Currens Ciceronianaがあり、17世紀もイングランド、ネーデルランドやドイツで人気があった（図5）。

プランタンが用いたスクリプト体5書体のうち、4つがシヴィリテで、そのうち3つをグランジョンが彫った。“Index 1567”の解題でCicero lettre françoiseと名づけられている12ポイントの書体が最初のシヴィリテ体（図6）で、1557年にリヨンで彫られた。スクリプト体の残りの1書体はBastardeと名づけられ、フランスの古い手書き書体をベースにした草書体で、やはりグランジョンがプランタンの注文で彫ったものである。

印刷史上、グランジョンより重要視されているのがガラモンである。彼は最初の専門の父型彫刻師とされている。しかし、プランタンはラテン・アルファベットではガラモンの活字のうちローマン体しか使用せず、ガラモンもプランタンのために彫ってもいない。

ガラモンのローマン体はマヌティウスのローマン体をベースにしており、以後2世紀にわ

たってヨーロッパのローマン体は彼の書体によっている。Vervlietは、彼のGros CanonとVraye Parangonne Romaineがルネサンス様式の特徴を最もよく示しているとして、現存する母型から1959年に活字を鑄造し直し（図7）、彼のローマン体の特徴を『優雅な線とおさえのきいた強調である。ここにはガラモンの技術と精神の特徴である静かで透明感のある形態という古典的態度がみられる。この態度はグランジョンのバロック的豊饒、オータンが関心を持った活字の経済性、キーレの不動堅固とは明らかに異なる』と述べている¹⁷⁾。

プランタンはガラモンのParangonne, Gros Romain, Augustine, Cicero, Petit Romain, Brevier Romainをほとんどのフランス語とラテン語の書物の本文に使用したという。またプランタンが使用したガラモンの活字はすべて、他の印刷家も用いている。事実これらの書体のほとんどが、後の活字見本帖に姿を現わし、200年後もガラモンの母型が買えた。

タフェルニエのラテン・アルファベットの活字のうち、ローマン体が7又は8、イタリック体が4、ブラック・レターが3、シヴィリテが2書体確認されている。1559年頃に初めてネーデルランドにシヴィリテを紹介したのは彼である。ただし、プランタンはこのシヴィリテを使用していない。彼の活字のほとんどがギヨと同様、プランタンが印刷業を始めた早い時期に使用され、まもなくガラモン、グランジョン、キーレの活字に取り替えられている。活字見本帖にもローマン体一つ(Primer Roman)とブラック・レター一つ(Nonpareil textura)が掲載されているのみである(“Index 1567”)。しかし、これはフランスとイタリアを除くヨーロッパで広く用いられる。ローマン体についていえば、プランタンはギヨを大きい書体に、タフェルニエを小さい書体用に用いた。Vervlietによるとギヨもタフェルニエも、所謂オールド・フェイ

ス系のローマン体の特徴を持っているが、ガラモンとは異なり、ギョの大文字のA, E, Gとタフェルニエの大文字のM, R, Pに特徴があるという (“Vervliet, Printing Types” p.65)。プランタンが使用した活字で比べてみると、タフェルニエの文字は、Mの二つの山の左側しかセリフがなく、Rの右側の脚部の流れが異なること、Pの右側の出っ張りがより大きいことが確認できた(図8。図7と比較のこと)。プランタンが初めて使用したイタリック体はタフェルニエの活字(Pica)で、これも同時代のドイツ、イングランドで見られる(図9)。

オータンはすぐれた技術を持っていたが、あまりよく知られていないようだ¹⁸⁾。ローマン体やイタリック体の小さい活字(Augustine sur le Texte, Nompaille Cursive, 約6ポイント)を初めて彫ったのがオータンらしい。前述のタフェルニエもブラック・レターで6ポイント相当の活字を彫っているが、この二人以上に小さい活字を作るのは17世紀にはいつてからである¹⁹⁾。この2書体を含めてプランタンが用いた活字は全部で7書体あり、“Index 1567”と“Folio c.1585”に掲載されているが、いずれも作成された年が明らかでない。Carterによると、オックスフォード大学出版局では1950年代にまだ使用しているという²⁰⁾。

同じくキーレも近年まで印刷史上あまりよく知られていなかった。しかし、16世紀の低地帯諸国の活字彫刻師の中では最もすぐれており、特に彼のブラック・レターとローマン体は、後の時代まで低地帯諸国で用いられ、この地方の印刷史上重要な地位を占めている。彼は1569年以降、プランタンのもとで仕事をするようになり、“Index 1567”には全くないが、“Folio c.1585”に掲載されている活字でプランタンが使用したものの半分以上を彼の活字が占めている。

彼のローマン体は、16世紀のオールド・フェイス系に属するが、フランス系のローマン体

と比べると幾分ストロークが太く、字幅が狭い(図10)。また、印刷物からは確認しにくいですが、“Early Inv.”や“Inv. PM”には、プランタンが1573年から使い始めた Ascendonica Romaineはグランジョンの同名の書体の小文字を太く修整したものだとか、1570年から使用し始めたNeuveau Texte RomainはガラモンのGros Romain Romainを短く修整したものだとかいう記述がみられる。

プランタンは、ブラック・レターについては、印刷業を始めてしばらくは、フランスのテキストウーラ体の特徴をもった北フランス地方起源の父型成作者不明の書体をいくつか使用した。これらの書体は低地帯諸国だけでなく、イングランドでも16-17世紀によく用いられたものである。1570年以降ほとんどキーレの活字を用いた。キーレは従来の低地帯諸国のテキストウーラ体の一部にフランスの形を持ち込んだ(図11 特に大文字のB, J, L, M, R, Zに注目)。これは美的感覚からではなく、印刷しやすくするために、字体を必要以上に複雑にしない目的があった。このために彼のゴシック体は16世紀における最良の書体となった。ただし、キーレがプランタンの注文に応じて初めて作ったTexte Flamand(約17ポイント)はフランス起源とされているFrench Great Primer Textureと類似しており、フランスの既存の活字を模倣したのではないかと思われる。なお、Bourgeoise sur la Medianeにおいて、ゴシック体史上初めてUとVが区別される(図12)。

プランタンが使用したフラクトゥーア体二つに言及しておきたい。ともに1520年代以前に作成されたと推定される書体で、小さい方の活字はAugustine Allemandeと呼ばれ、プランタンは1580年から使用している。ヒエロニムス・アンドレアエ(Hieronymus Andreae, ?-1556)が彫ったこの活字はヨハン・ノイデルファー(Johann Nuedörffer)のデザインであり、フラクトゥーア活字の完

成体とされるものである(図13)。この活字をデューラー(Albrecht Dürer, 1471-1528)が1525年の「測定法指導」(Underweysung der Messung)と最後の著作2点に用いており、一時はデューラーのデザインとされていた²⁾。この古いドイツの書体の母型を1580年頃にプランタンがわざわざ購入したのは興味深い。

これに対して、大きい方の書体はPhilosophie Allemandeで父型の作成者はわかっていないが、ペトリ・フラクトゥーアと呼ばれているもので、印刷業者ペトリ(Johann Petri)の活字見本帖(1525年刊。注記16参照)に掲載されている。

古い活字ということでは、やはりゴシック体で、父型作成者が不明である15世紀末のFrench Long Primer Texteと16世紀初頭のMoyon Canon Flamandがあり、16世紀にはフランス、イングランド、低地帯諸国で共通して見られる。プランタンはどちらも1560年代後半から1570年代にかけて使い始めている。

このほかに父型作成者の不明な書体が9点ほどあり、そのうちの半分ほどは16世紀に低地帯諸国でよく使われたようであるが、プランタンは父型も母型も持っていなかったと思われるものが多い。

4. おわりに

プランタンが使用した85書体のうち、いずれの活字見本帖にも掲載されておらず、筆者が参照したいくつかの論文の中からもその書体のコピーが得られなかった書体が、ローマン体に二つ(Augustine RomainとMediane Romaineと、イタリック体に一つ(Augustine Cursive)あり、すべて父型作成者は不明である。この3体については、使用されている文献名がわかっているので、後の機会にオリジナルなり、コピーなりを見て検討する必要がある。しかし、当初の予想を上回り、

プランタンの使用した活字が活字見本帖に掲載されていたり、研究対象とされていることがわかった。また思った以上に後の時代にもプランタンが使用したのと同じ活字が使用されていた。さらにそれらの中に日本のきりしたん版に西洋活字として用いられたり、アメリカ大陸にまでわたった活字があったことは浅学の筆者には予想できなかったことである。

もうひとつ、筆者はドイツ書体(フラクトゥーア体)の発達との関係で16世紀の低地帯諸国におけるフラクトゥーア体の使用についても少なからぬ関心があったのであるが、これも予想を裏切って、ドイツ書体はわずか2書体しかプランタンが用いていないこと、しかも既存のドイツの活字しか使わず、新しい書体を彫らせていないのは意外であった。ただ一般的なゴシック体の使用という観点では、プランタンもやはり、聖書、宗教書、自国語(Vernacular)にゴシック体を多く用いていたことが確認できた。

この調査の過程で、印刷された活字の複製物から、幾人かの父型彫刻師の活字の特徴をとらえることは難しく、文献にはその違いが述べられていても確認できないことがたびたびあった。特に活字の太さを云々するとき、鑄造されたばかりの活字による印刷物を見るのか、使い古して活字面がつぶれかけているものを見るのかでは、全体の印象がずいぶん異なり、同じ活字と思えないほどである。複製物のみで、古い活字について述べることの限界を感じた次第である。

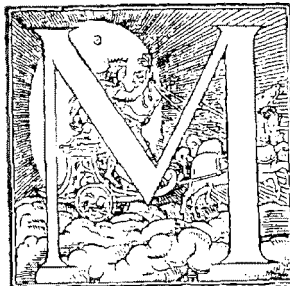
5. 謝 辞

本稿を書き上げるにあたり、病をおして文章のチェックをしてくださった名古屋大学総合言語センター比較言語部の鈴木繁夫先生をはじめ、励ましてくださったり、資料を提供してくださった同センターの先生方、また資料収集の面でお手を煩わせました中央館相互協力掛の皆様にも、この場を借りて御礼を申し上げます。

THE SECONDE BOOKE OF

the Cosmographicall Glasse: in which is plainly expressed the Order, and Number, of Zones, Paralleles, and Climates. Also sundry waies for the exakte finding out of the Meridiane Line: The Longitude, or Latitude, of places: with many other preceptes, belonging to the making of a Carte, or Mappe.

Spoudæus.



MORPHEVS THE
God of dreames, with his
slepie rodde, so much this
last night frequented my
companie, that (my bodye
taking rest) my mind was
much more busilie traue-
ling in such conclusions as
I had learnid of Pbiloni-

cus, the it was in the time of his teaching. For some time
Morphæus shewed me the Sonne, in the tropicke of Ca-
pricorne, farre in the South, among the cloudye skies, as
he comenly is the .13. day of December: And next he ap-
pered in th Equinoctiall pointes, as it is the tenth daye of
March, and the .14. of Septēb. willing me with great di-
ligē to note that parallele circle. Shortly after the sone
appeared in the tropicke of Cancer, in whiche place he is
the .12. daye of Iune, causing in our region the longest day
in the yere. & immediatly the time seemed as it were mid-
night, & Charles Wayne, with Bootes, & diuers other
sterres, turned about the Pole. But as he wold haue car-
ried me about the heauē, to haue shewid me the North
F. iij. Crowne

Whē the Sone
is in the Tro-
pik of Capri-
corne.
In both Equi-
noctiall point-
es.

In the Tropick
of Cancer.

(図 3)

William Cunningham.
Cosmographicall Glasse.

London, Day, 1559

第2冊 第1ページ (縮小)

ギヨのイタリック体

Double Pica を使用。

Quisquis est, qui moderatione &
constantia polleat, quietus animo est,
sibi que ipse placatus, vt neque tabescat
molestiis, neque frangatur timore, nec
sitiēter quid expectans, ardeat deside-

(図 4)

グランジョンのPetit Canon Romain ("Index 1567" より部分を縮小転載)

EX PHILOSTRATI IMAGINIBVS FA- BVLAE.

FABVLAE se ad Aesopum, sua in eum beneuolen-
tia cōferunt, quod sat agat sui: fabula quippe & Ho-
mero & Hesiodo, nec non & Archilocho in Lycamben-
cure fuit. sed ab Aesopo humana omnia ad fabellas re-
dacta sunt, sermone brutis non temerè impertito. nam
& cupiditatem imminuit, & libidinem insectatur, &
fraudem. Atque haec ei leo quispiam agit, & vulpes, &
per Iouem equus, nec testudo mura, ex quibus pueri di-
scunt, qua in vita gerantur. Habita igitur in precio fa-
bulae, per Aesopum accedunt ad sapientis ianuam vitis
eum deuinctura, coronaz, oleagina coronatura. hic, vt
puto, fabulam aliquam texit. risus enim faciei, & ocu-
li in terram defixi id pra se ferunt. pictorem, fabula-
rum curas remissione animo indigere, non latuit. Philo-
sophatur autem pictura & fabularum corpora. Bruta
enim cum hominibus conferens, cœtum circa Aesopum
statuit, ex illius scena confictum. Chori dux vulpes de-
picta est. vititur enim ea Aesopus sinistra argu-
mentorum plurimum, ceu Dauid

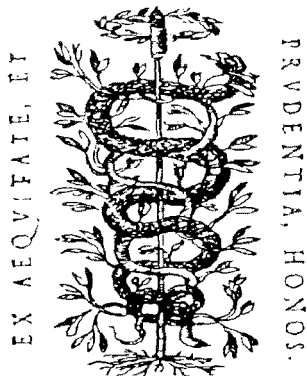
Comœdia.

AESOPT

Dialogue de la Vie et de

La Mort, Composé en Vers par
Maître Innocent Bilingue,
Seul Homme Boulangois.

↕
Nouvellement traduit en François par Jehan
Leuclan, Recteur de Chastillon de Somme.
Second Edition.



A Lyon.

De l'Imprimerie de Robert Granjon.
MDC. LV. LXX.

Avec priuilege du Roy.

(図5)

グランジョンのLitera Currens Ciceroniana
でJohnsonの活字番号No.12 (The Italic types
of Robert Granjon)

見本はAesop. Fabulae.

Frankfort, G. Corvinus, 1556 (縮小)

(図6)

グランジョンの最初のシヴィリテ体。

見本はI. Ringhieri. Dialogue de la vie
et de la mort. 2nd ed. (仏訳)

Lyons, Granjon, 1558の標題紙 (縮小)

同じ書体による初版(1557年)はS. H.

スタインバーグ著 高野彰訳「西洋印刷
文化史」(日本図書館協会 1985)

P.42参照。

A B C D E F G H I K L
 M N O P Q R S T V
 X Y Z a b c d e f g h i l
 m n o p q r s t u v x y z
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 , . ' ! ? ; : - ' ~
 Æ æ ð ſ ſi ſ œ ſ ſi ſt ſ R
 & ã á à â ç é è ê ë ç ï ï ï ï l
 ñ ñ ñ ó ó ó ó ð ð ð ð ð ð ð
 ã ã ã ã ã ã ã ã ã ã ã ã ã ã ã
 Γ Δ Θ Λ Μ
 Ξ Ο Π Σ Υ Φ Χ Ψ Ω

(図7)

ガラモンのGros Canon (40ポイント)

Vervliet, H. D. L. The Garamond types of Christopher Plantin.

p.18より転載 (ほぼ原寸)

A B C D E F G H
 I L M N O P R
 S T V

(図8)
 タフェルニエの2-Line Great Primer Roman Capitals
 “Vervliet, Printing Types” p.223より転載(ほぼ原寸)
 (図7)の大文字の文字の太さと, M, P, Rの形を比較のこと

A A B C D E G H I K L M N O P Q R S T
 V W z a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t
 u v w x y z a s e f f i j k l m n o p q r s t

(図9)
 タフェルニエのPica Italic
 プランタンが1555年に初めて用いたイタリック体
 “Vervliet, Printing Types” p.299より転載(やや拡大)

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W
 X Y Z a b c d e e f g h i j k l m n o o p q r s
 t u u v u w w x y z ; ð ñ ſ ſ ſ ſ ſ ſ ſ ſ ſ ſ
 , : ; = ! / (f f f f f f f

(図12)

キーレのBourgeoise sur la Mediane. UとVが区別されている。
 "Vervliet, Printing Types" p.165より転載(やや拡大)。

Augustine Allemande.

31

Wann / vnd zu welcher zeit das ganz heer vnd hauffen
 zu felde / vnd an den grünen vfern der wasser ligt / So
 gebieten wir auß fürsichender vnd vorbedachter macht / das
 je keiner / er sei wer er wolte / mit Kat oder Mist / damit der
 flus oder wasser verunsaubert werden möchte / den gemey-
 nen Tranck verunreinige / Noch auch / so er die Pferd zu
 schwemmen oder zu säubern / vnd den schweiß abzuwäschen /
 eilet / meniglichs augen vnd anschawung / widermütig vnd
 abscheuhig mache / Sonder dasselbig sol er ferne von je-
 demans gesicht vnden zu des flus thun.

Zum ersten / mach ein rechte siring / van gleychen seiten vnd winklen / vnd teyl die mit vier bar linien /
 aufrecht vnd oberzwerchan. 9. kleyn siring / vnd setz in yliche ein mittel puncten / vnd nim ein cirkel
 setz in mit dem ein fuß in die selben puncten nach ein ander / vñ thü den andern fuß so weit auß / das er
 in einer ylichen siring die vier seiten an rür / vnd reysz rund reysz hinein / so rürt ein cirkellini vier ander
 an. Auch beleyben albeg vier eckete hole auß geschnidne selder zwischten vier cirkellinien.
 Zum andern / seht man die cirkellini rautens weys an einander / so bleyben albeg zwischten diesen cir-
 kellinien hole auß geschnidne dyleckete selder. Mach das also / reysz ein siring . 1. 2. 3. 4. vier rechter
 dringel hoch die mit seiten vnd spizen aufeinander stend / vñ diezer die mit iren ecken an einan-
 der an rüren. Also das die ganz siring halt. 2 4. dringel / der halben vnd ganzen / vnd bezeichnen die
 dringel bey den zwerch linien / die sie schneyden / an iren ecken / mit dem. a. b. c. biß auß. r. Darnach
 setz den cirkel mit dem ein fuß / in die puncten der buchstaben / vnd thü den andern fuß einer halben seiten
 lang des dringels weit auß / vnd reysz auß ein ylichem puncten der buchstaben wie sich das begibt ein cir-
 kellini / so finden sich 7. ganz cirkel / vnd. 10. halb / das mache als zwelf ganz cirkel. Vnd wo man der
 cirkel solicher mas vill an einander setz / so rüren alweg. 6. den sybotten an.
 Man mag auch zirkellini mancherley weys durcheinander reyszen / vnd vill dings darauf machen.
 der wilschyn eine oder drey doch fast einer meinüg andeygen / darauf man ein wiciter mit sein an-
 hang nemē mag. Ich reysz auß im Centru. a. ein cirkellini / die grad ich mit. 2. puncten / in gleyche
 teyl / vñ reysz auß ein ein ylichem / mit vnueruckte cirkel ein lini die dz Centrum. a. rür / so durchschneyde.

(图13)

ヒエロニムス・アンドレアエのフラクトゥーア体, Augustine
 Allemande。上は“Folio c.1585”より, 下はAlbrecht Dürer。
 Underweysung der Messung. 1525を縮小転載。

〔注 記〕

1) ルネサンス時代に上流社会に流行した寓意図像本。教訓のついた標語(モットー)とそれを象徴する絵から成る。Landwehr, John. Emblem books in the Low Countries, 1554 - 1949: a bibliography. Utrecht, Dekker, 1970 (Bibliotheca emblematica, 3)にはプランタンが印刷したエンブレム・ブックが67点採録されている。

2) この時代としては2~4台が普通で、少し多いところで5~6台という(Clair, Colin. A history of European printing. London, Academic Press, 1976. pp.197-198)。ちなみに16世紀フランス最大の印刷所であるエチエンヌの印刷機は4台である。

3) 印刷所の経営者の名前とその就任期間は, Voet, L. The Golden Compasses: a history and revolution of the printing and publishing activities of the Officina Plantiniana at Antwerp. Vol. 1-2. Amsterdam, 1969-1972. のVol. 1, Appendix 2, p.430を参照のこと。

4) Murray, John J. Antwerp in the age of Plantin and Brueghel. Norman, Univ. of Oklahoma Press, 1970. p.68

5) プランタンは異端者であると告発されて、1558年バリへ逃亡する。アントワープへ戻るのは1563年である。エチエンヌはプロテスタントと関わりをもっていただけ、1551年にバリからジュネーブへ逃亡しなくてはならなくなり、その地で亡くなる。ジョン・デイはメアリー女王時代に熱心な改革主義者であったため、ロンドン塔へ投獄される、等。

6) ゴシック体の一種で最も形式ばった書体。字幅が狭くて背が高く、曲線がない。主として聖書や宗教書の印刷に用いられたが、イタリア、フランス、ドイツでは15世紀中にすたれ、用法がさらに限定された。しかし、低地帯諸国やイングランドではヴァリエーションのあるものの18世紀頃まで生き永らえる。

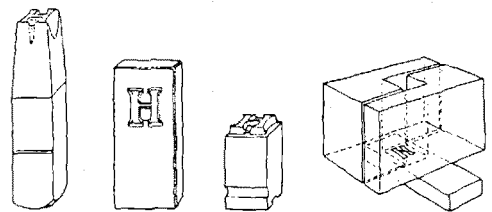
7) エリザベス朝時代に活躍した宗教改革派の印刷家、活字意匠家である。William Caxton(1422?-1491)がイギリスに印刷術をもたらして以来、William Caslon(1692-1766)の出現までの間、イギリスの印刷界ではあまり見るべきものがないが、デイはその活字の美しさ

と印刷物と印刷所の規模で傑出した印刷家である。イギリスにおける最初の楽譜の印刷者の一人であること、アングロ・サクソン活字をデザインしたことで知られる。保護者に大司教 Matthew Parker がいた。このあたりのことは、渡部昇一著「イギリス国学史」(研究社 1990)で述べられている。

8) 父型はpunchの訳で、活字の母型を作るための凸型。母型はmatrixの訳で活字を鑄造するための凹型。

Voet, L. Ibid. Vol. 2, pp.78-91に詳しいが、ここでは下図を参考に載せておく。

(Gaskell, Philip. A new introduction to bibliography. New York, Oxford University Press, 1972. p.11より転載)



左から、父型、母型、活字および手作業で鑄造する場合の原理を図式化したもの

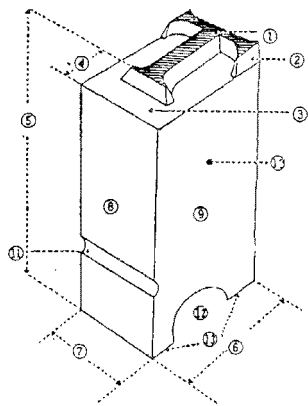
9) 活字の大きさ。大日本印刷株式会社編「図解印刷技術用語辞典」(日刊工業新聞社, 昭和62)によると、『活字の背(back)から腹(front)までの距離のボディサイズ(body size)の寸法で表される。(中略)欧文活字の左右(字幅はWのように広いもの、Iのように狭いものなどがある)が一定しない。したがって、ボディサイズの寸法を活字の大きさとしている。その単位はポイントで表される。』

下図の「活字面の構成と名称」は同書p.60, 「活字の各部の名称」はエズデイル著 高野彰訳「西洋の書物」(雄松堂 1977) p.83。



- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 大きさ(body size) | 6 ミーン・ライン(mean line) |
| 2 ベースライン(base line) | 7 キャップ・ハイト(cap height) |
| 3 アセンダー・ライン(ascender line) | 8 X-ハイト(x-height) |
| 4 キャップ・ライン(cap line) | 9 セット(set) |
| 5 ディセンダー・ライン(descender line) | 10 サイド・ベアリング(side bearing) |

活字面の構成と名称



- ① 字面
(実際の印刷面)
- ② 斜面
- ③ 肩
- ④ 首
- ⑤ 高さ (字面から脚
まで、0.918インチ)
- ⑥ ボディー
- ⑦ 幅
- ⑧ 腹
- ⑨ 側面
- ⑩ ピン・マーク
- ⑪ ネッキ
- ⑫ 溝
- ⑬ 脚

活字の各部の名称

なお、ブランタンの時代は今日のポイント制を用いていない。現代のサイズとの対照表を“Early Inv.”のAppendix Iより部分的に転記する。なお、この時代の活字の大きさを特定するのに、“Index 1567”も“Folioc.1585”も“Vervliet, Printing Types”も通常20行の長さ、X-ハイトの高さ、大文字の高さをミリメートルで表示している。

ボディの名称	20行の 長さ	ポイント
Gros Flamand Lettre	1088	155
La Plus Grande Romaine	478	83
Canon d'Espagne	333	47.5
Gros Canon	288	41
Moyen Canon	228	32.2
Petit Canon	189	27.2
Ascendonica	139	20
Parangonne	132	18.7
Reale	130	18.5
Petite Parangonne	122	17.7
Texte (Gros Romain)	116	16.6
Nouveau Texte	109	15.5
Augustine	93	13.4
Petite Augustine	87	12.3
Mediane (Cicero)	79	11.3
Philosophie	70	10.3
Garamonde (Petit Romain)	65	9.4
Colineus (Bourjoise)	61	8.6
Bible (Petit Texte)	52.5	7.6
Coronelle	45	6.5
Jolie	43	6.1
Nompareille	41	5.8

(ただし、ギョのAscendonica RomaineとItaliqueは上記よりも若干小さい。)

10) ゴシック体の中ではのバスタード体に属する比較的新しい書体で16世紀初頭にドイツで完成された。アウグスブルクのシューンスペルガー (J. Schönsperger) がマクシミリアン皇帝のために印刷した「祈祷書」(1513)、「トイアーダंक」(1517)などにその起源が見られる。さらにニュルンベルクのノイデルファーがデザインし、アンドレアエがその活字を彫った「凱旋記念車」(ドイツ語版, 1522)がフラクトゥアア体の完成した形とされる。この書体がデューラーの「測定法指導」にも用いられるのである。その特徴は、大文字は「象の鼻」、小文字は「あひるの足」に譬えられる折れ曲がったストロークにある。1941年にヒトラーに廃止されるまで、いくつかの改良書体が試みられ、ドイツ書体として用いられた。本文p.38(右)及び図13を参照。

11) 15-16世紀のテキストゥーラ体は使用される地方によって三つに分けられる。即ち、北部フランス及びフランドル地方、オランダ、ドイツである。16世紀前半の低地帯諸国のテキストゥーラ体活字の特徴はフランスに比べて、もっと角張っていて、大文字には斜めのヘアライン(隼)がある。小文字はaを除いて、ストロークに曲線がない。また同時期に北フランス地方の少し丸みのあるテキストゥーラ体をイングランドと低地帯諸国が受け入れるようになる。ヘアラインはあるが、斜めではなく垂直または横(馬)である。この時代のテキストゥーラ体をブランタンは1570年頃用いるのである。そして16世紀後半は、低地帯諸国の父型彫刻師、ギョ、タフェルニエ、キーレの時代を迎える。

以上、“Vervliet, Printing Types”pp.40-48参照。

12) オランダ語に限って言えば、17世紀までゴシック体を用いられ、中でも公文書は18世紀まで、典礼用の印刷物には19世紀まで用いられた。

13) Dreyfus, John, ed. Type Specimen Facsimiles. [no. 1-15] (選択解題書誌参照)に収められている活字見本帖の no. 1, Anonymous Netherlands Sheet c.1565と名付けられているもので、ローマン体とイタリック体が3書体ずつ掲載されているが、ブランタン-モレットゥス博物館の文書から、いずれもギョの作であることが確認されている(図2参照)。

14) Carter, Harry. A view of early typography up to about 1600. Oxford, Clarendon, 1969. p.96; “Vervliet, Printing Types” p.249の記述による。「ぎやどべかどる」(1599年版)の標題紙に見られる大きい方のローマン体がギョのAscendonicaと思われる。

15) ゴシック体の一種で草書体。フランスの手書き書体を活字化したもの。グランジョンはイタリック体に対抗して、フランスの国民的書体を意図して作り、1558年にはアンリ二世から10年間の特権を得た。自らは“lettre françois”と名付けた。シヴィリテとは後にそれを用いて印刷された書物のタイトルから付けられた名称である。一般的な書物には使用されず、限定的にフランス、オランダ、ドイツで用いられることになった。図6を参照。

16) Type specimen facsimiles II (選択解題書誌参照)では、プラントンの活字見本帖に掲載されている活字が、他の31点の活字見本帖のどれに出現しているか表で示されている。それらは以下のとおりである。

(1)F. Guyot c.1565 (注記13, 図2を参照) (2)K. Berner 1592 (3)J. Berner 1622 (4)Vatican Press 1628 (5)Imprimerie Royale 1640 (6)B. Voskens c.1660 (7)~(10)J. E. Luther 1664, 1665, 1666, 1670 (11)J.P. Fievet 1664 (12)R. Voskens c.1670 (13)~(14)J. A.Schmidt 1675, c.1695 (15)Widow Elsevier 1681 (16)J. D. Fievet 1682 (17)Oxford University 1693 (18)Widow Voskens c.1695 (19)Adamsz and Entec.1700 (20)Widow Luther 1702 (21)J. H. Stubbenvoll 1714 (22)~(23)Luther Foundry 1718, 1745 (24)~(25)Halle 1727, 1740 (26)Lamesle 1742 (27)Schippelius 1755 (28)Jan Roman and Co. 1762 (29)Widow Schippelius 1768 (30)Becker 1770 (31)Delacolonge 1773

以上の他にプラントンが用いた活字が掲載されている活字見本帖として“Early Inv.” “Inv. PM”にはパーゼルのペトリ (Johann Petri) が用いた活字の見本帖 (1525年刊。Updike Printing types, pp.133-134, 145参照) 及び Max Rooses 序の Index charactervm architypographiae Plantiniana (選択解題書誌参照) が掲げられている。いずれも複製で見ることができる。

17) Vervliet, H. D. L. The Garamond types of Christopher Plantin. p.17

18) 宮下志朗著「本の都市リヨン」晶文社 1990 p.190 ; H. Carter. Plantin's types and their makers. p.135

19) Carter, Harry. The types of Christopher Plantin. p.176

20) Carter, Harry. Plantin's types and their makers. p.135

21) Kuhlmann, Fritz. Ist Dürer der Schöpfer der Frakturschrift? Repertorium für Kunstwissenschaft (49), pp.158-162, 1919; Kautzsch, Rudolf. Die Entstehung der Frakturschrift. Mainz, Gutenberg-Gesellschaft, 1922. pp.16-21 等

選 択 解 題 書 誌

プランタンに関する資料は非常に多く、言語も英語、フランス語、オランダ語に及ぶ。ここでは、プランタンの活字に関する文献で、本文の中で言及したものに限定して解題を付した。

1. Carter, Harry. Plantin's types and their makers. (De Gulden Passer. 34, pp. 121-143, 1956)
プランタン—モレトゥス博物館のコレクション(文書, 父型, 母型, 活字見本帖等)についての研究の歴史やそれらの概要, 父型彫刻師の紹介, 活字鑄造に関してプランタンの与えた影響などが簡単に述べられている。図版, 写真入り。Carter氏はオックスフォード大学出版部文書係(Archivist)在籍。1955年9月アントワープで開催されたプランタンの印刷400年を祝う国際会議(International Congress on Printing and Humanism)の講演録。
2. Carter, Harry. The Types of Christopher Plantin. (The Library. 5th ser. Vol. 11, pp.170-179, 1956)
1955年11月に開催された書誌学会(The Bibliographical Society)の講演記録。
“Folio c.1585”(本文中ではこの活字見本帖のことを1579年頃編纂されたとしているが、後の調査で1585頃と修正されている。Type specimen facsimiles IIのp.6を参照)を部分的に複製したものが付され、そこに掲載されている活字およびその父型作成者の紹介がされている。
3. Carter, Harry. A View of early typography up to about 1600. Oxford, Clarendon Press, 1969
14~16世紀におけるヨーロッパの印刷術を概観している。活字作成の技術, 字体の変遷, 書体の使用の変遷, 活字の鑄造と父型彫刻師について述べられている。プランタンの時代の印刷術の背景を知ることができ、特にプランタンと関わりのあった父型彫刻師についての記述が有用。図版多数。
4. Dreyfus, John, ed. Type specimen facsimiles : reproductions of fifteen type specimen sheets issues between the sixteenth and eighteenth centuries. With an introductory essay by Stanley Morison. London, Bowed, 1963
複製物の内容は①Anonymous Netherlands Sheet c.1565 ②K. Berner, Frankfurt 1592 ③J. Berner, Frankfurt 1622 ④J. P. Fievet, Frankfurt 1664 ⑤J. D. Fievet, Frankfurt 1682 ⑥B. Voskens, Hamburg c.1660 ⑦R. Voskens, Frankfurt c.1670 ⑧—⑨The widow of Dirck Voskens, Amsterdam c.1695 ⑩—⑪The widow of J. Adamsz. and Abraham Ente, Amsterdam c.1700 ⑫Widow of D. Elsevier, Amsterdam 1681 ⑬Jan Roman, Amsterdam c.1762 ⑭Fragments of type-specimens associated with Johann Adolf Schmidt c.1695 ⑮J. Rolu, Amsterdam c.1700で本書で初めて複製されたものが8点ある。各々の活字見本帖および掲載されている活字についての記述がある。S. Morisonによる18世紀までの活字見本帖, 活字やその書体, またそれらの研究史等についての解説がある。
5. Johnson, A. F. The Italic types of Robert Granjon. (The Library. 4th ser. Vol. 21, pp.291-297, 1940)

グランジョンが彫った14書体のイタリック体を年代順に解説し、それらの活字を用いた印刷物の1ページが複製されている。解説には活字のサイズ、使用された地域(印刷所、印刷家を含む)、字体の特徴等が記されている。14書体中11書体をプランタンが用いており、印刷物の複製は1点“Humanae salutis monumenta”(1571)が掲載されている。

6. Museum Plantin-Moretus. Inventory of the Plantin-Moretus Museum punches and matrices. Antwerpen, Museum Plantin-Moretus, 1960

プランタン-モレトゥス博物館の部内資料というべきもので、内容はタイプ打ちである。ニューヨークのデザイナーであったM. Parkerが奨学金を得て、K. Melisと同博物館のスタッフと本格的に同博物館が所蔵する全母型の在庫調査、詳細な父型の在庫目録の編纂、プランタンの在庫目録や文書、書物と照合して父型や母型のコレクションを点検するといった調査を終了した。その調査結果が本文献である。活字が書体別に、活字のサイズの大きいものから掲載され、解説が付されている。その内容は後述のParkerのものによく似ているが、特に父型や母型の入手過程や現存するフォントの内容が詳細である。

7. Parker, M., et al. Typographica Plantiniana II. Early inventories of punches and matrices, and moulds in the Plantin-Moretus archives. (De Gulden Passer. 38, pp. 1-139, 1960)

標題が示すようにプランタン印刷所の初期、即ち1561年より1652年までの父型や母型の在庫目録16点の内容を年代順に掲載したもの。内容は在庫目録の作成者、作成の目的、父型・母型(活字)のもとにそれらの現存する数、活字の名称、父型彫刻者、活字が掲載されている見本帖、使用されている印刷物(主としてプランタンの)とその出版年等。

8. Rooses, Max. Index characterum Architypographiae Plantiniana. [2nd ed.] Antwerpen, Museum Plantin-Moretus, 1905

プランタン-モレトゥス博物館の初代館長(curator)の編纂による、プランタンの活字見本集成。初版は1896年。“Index 1567”や“Folio c.1585”には掲載されていない花文字や多くのプランタンの印刷者マークが見られる。プランタンが用いた48書体が掲載されているが、選定の根拠があきらかでない。これがきっかけとなって本格的なプランタンの活字の研究が始まる。解題はオランダ語とフランス語。

9. Type specimen facsimiles II. With annotations by H. D. L. Vervliet and Harry Carter. Toronto, University of Toronto Press, 1972

上記4の続編で、“Index 1567”, “Folio c.1585”および“The Le Bé-Moretus collection of fragments c.1599”の複製が掲載されている。3つの活字見本帖の詳しい来歴、内容があり、各見本帖に掲載されている書体ごとに、その名称、父型彫刻者、サイズ、その活字の初出の文献名等を含む解題が付されている。

最初の活字見本は、Index sive specimen characterum Christophori Plantini 1567と名付けられており、ヘブライ語、ギリシア語、花飾りを含む、47書体が掲載されている。図書の形態をした最初の活字見本帖として知られる。プランタンが「欽定多国語対訳聖書」を印刷するためにスペイン国王から援助を得ようとして作成したもので、彼のフランス在住時代の活字を代表している。

次のPlantin's folio specimen c.1585と名付けられている見本帖は重複を除いて67書体が掲載されている。上記の聖書を印刷したために蒙った負債を返済するために印刷所を売るか抵当に入れようとして作成された財産目録というべきものである。後のオランダに

影響を与えたネーデルランドの父型彫刻師キーレの活字とフランス人の活字が多く含まれている。

最後のThe Le Bé-Moretus collection of fragments c.1599は、パリの活字鋳造者ル・ベ (Le Bé, Guillaume II, ?-1645) による活字見本である。プランタンの女婿モレトゥス (Moretus, Jan I, 1543-1610) が持っているガラモンのPetit Texte (ローマン体) の母型をル・ベがいくつかの母型と交換条件に得ようとして、モレトゥスに送った活字のカタログで、ル・ベによる手書きの注がついている。ここに掲載されている活字のうちラテン・アルファベットは1点を除いて、“Index 1567”, “Folio c.1585”の活字と重複している。そしてその1点はプランタンに使用されていないことがわかっている。

10. Updike, Daniel Berkeley. Printing types : their history, forms, and use. 2nd ed. Vol. 2 New York, Dover, 1980 (reprint of 1937) pp. 3-15
印刷術が発明されてから19世紀までの国別、時代別の活字史。プランタンについては13ページと図版11点が充てられている。印刷史を扱った書物の参考文献に必ず出てくる基本的な図書。
11. Vervliet, H. D. L. The Garamond types of Christopher Plantin. (Journal of the Printing Historical Society. 1, pp.14-20, 1965)
ガラモンの業績とプランタンが所有したガラモンの活字について述べている。彼の代表とされるローマン体2つについて、現存する母型から活字が鋳造し直され、それを用いて、“Index 1567”の該当部分の文章とフォントが複製されている。
12. Vervliet, H. D. L. Sixteenth-century printing types of the Low Countries. Amsterdam, Menno Herzberger, c1968
標題からわかるように、プランタンの活字のみを対象としたものではないが、第7章で書体別 (テキストウーラ体, ロトゥンダ体, バスタード体, シヴィリテ体, アンシャル体, ローマン体, イタリアック体, 非ラテン・アルファベット, 楽譜) に、サイズ, 父型作成者, 初出の文献名, 掲載している活字見本帖, 現存する父型・母型の所在, 書誌学的な解説, 書体の複製が付されている。その他の章では、低地帯諸国でそれぞれの書体がどのように発達し用いられたか, どのような父型彫刻師が活躍したか等が述べられている。字体を示す図版が豊富で、印刷物や母型から可能な限りそのフォントを再現している。
13. Voet, L. The Golden Compasses: a history and revolution of the printing and publishing activities of the 'Officina Plantiniana' at Antwerp. Vol. 1-2 Amsterdam, 1969-1972
序論でプランタンの用いた活字とフォント, 父型・母型, 鋳造活字について, 来歴, 移動が述べられている。「印刷家の技術と方法」の項では、活字意匠として、プランタンの書体と時代背景が記されている。全体として上記文献の1-3, 6-7, 12をまとめたようなものであるが、活字のみでなくプランタンに関すること全般に触れている。付録としてプランタン-モレトゥス博物館の概要や所蔵する手紙類などの文書の一部が掲載されている。また巻末にプランタンに関する豊富な書誌がある。

プランタンの活字一覧

〔記述の内容〕

書体の名称【父型作成者】父型・母型の番号
プランタン初出の作品名／著者／出版年（作
品中の出現箇所）

〔配列〕大文字の大きい順

数字の前の*は本稿中図版のあるもの。

A. ローマン体

1. La Plus Grande Romaine
【Van den Keere】ST 1
Missa／P. de Monte／1579（標題紙）
2. Grosses Capitales Romaines
【Garamont】ST 3, MA78
Novum Jesu Christi Testamentum
／1567（イニシャル）
- *3. Canon Romain 【Van den Keere】
ST 6 b, MA 1 b
Psalmi Davidis／A. Montanus／
1573（標題紙）
4. 2-line Pica capitals 【Granjon】
Collatione Scriptorum Graecorum
／Virgil／1567（標題紙）
- *5. 2-line Great Primer Roman Capitals
【Tavernier】
De Potestatibus romanorum／A. D.
Floccus／1561
- *6. Gros Canon Romain 【Garamont】
MA 2, 3 a
Vivae Imagines／Vesalius／1566
（献辞）
7. Grasses Capitales 3 Regles Mediane
【Van den Keere】ST 6 a, MA 1 a
Placcart et Ordomnancie…／1570
（標題紙）
8. Canon Capitales 【?】MA131a
Theatrum orbis Terrarum／Ortelius
／1579（Ptolemaicus）
9. Moyen Canon Romain
【Van den Keere】ST 7, MA79a
Historia de…España／Garibay a
Camalloor／1571（奥書）
- *10. Petit Canon Romain 【Granjon】
Adagiorum／Erasmus／1564（標題
紙）
11. Petit Petit Canon Romain
【Tavernier】MA77
La institutione di una fanciulla…
／M. Bruto／1555
- *12. Double Pica 【Guyot】MA131b
De Oeconomia／La a Villavicentio
／1564
13. Ascendonica Romaine 【Granjon】
ST 9, MA 7, 8
Sermon Faicte en l'Eglise／F.
Richardot／1570（標題紙）
14. Ascendonica Romaine
【Van den Keere】ST10
Oratio Legatorum／1578（奥書）
- *15. Ascendonica Romaine 【Guyot】
Les Ephemerides de l'Air／A.
Mitzauld／1555（Book head）
16. Reale Romaine 【Van den Keere】
ST11, MA12
Rariorum aliquot stirpium historia
／C. Clusius／1576（奥書）
17. Parangonne Romaine
【Garamont】MA97
Grammatica Hebraea／J. Isaac／
1564（Privilege）
18. Parangonne Romaine
【Granjon】MA112
Rechten ende Costumen van
Antwerpen／1584（標題紙）
19. Gros Romain Romain
【Garamont】MA20a, b
Grammatica Hebraea／J. Isaac／
1564（本文）
Biblia Polyglotta／1569-72
（ラテン語の本文）

20. Nouveau Texte Romain
【Van den Keere】
Oratio Funebriſſ1570 (献辞)
21. Augustine Romaine
【Garamont】ST13a, MA25a
EmblemataſſJ. Sambucusſſ1564
(本文)
22. Augustine Romaine 【?】
Historiale Description de l'Ethiopie
ſſF. AlvarezſſJ. Bellere [printed
by Plantin] 1558
23. Augustine sur la Mediane
【Granjon】MA25b
De multiplici sicloſſS. Grsepsius
ſſ1568 (本文)
24. Cicero Romain
【Garamont】MA36a
L'A. B. C., ou Instruction
Chrelstienneſſ1558 (本文)
25. Mediane Romaine 【?】
La Institutione di una Fanciulla
Nata NobilmenteſſM. BrutoſſJ.
Bellere [printed by Plantin] , 1555
(本文)
26. Mediane sur la Philosophie
【Granjon】MA36b
De MultipliciſſS. Grsepsiusſſ1568
(Privilege)
27. Texte Romain 【Tavernier】LMA21?
FloresſſSenecaſſ1555 (献辞)
28. Philosophie sur la Mediane
【Van den Keere】ST16, MA43
Summa Doctrinae ChristianaeſſP.
Canisiusſſ1580 (本文)
29. Philosophie Romaine 【Haultin】
De PonderibusſſG. Rondeletiusſſ
1561 (本文)
30. Petit Romain
【Garamont】MA48a, b
Psalterum Davidisſſ1558 (本文)
31. Primer Roman 【Tavernier】MA53a
Les Observations de Plusieurs
SingularitezſſP. Belonſſ1555(Index)
32. Gaillarde sur la Garamonde
【Granjon】MA61
Terentiusſſ1574 (本文)
33. Colineus Romaine
【Granjon】MA47b
Flores Bibliaeſſ1568 (本文)
34. Brevier Roman 【Garamont】
ST20a, MA56a, 57
Novum Testamentumſſ1559 (本文)
35. Coronelle Romaine
【Haultin】MA160
ArgonauticonſſValerius Flaccusſſ
1566 (标题纸)
36. Coronelle sur la Bible
【Van den Keere】ST21, MA161
Institutiones et exercitamenta
Christianae pietatisſſ1573 (Index)
37. Iolie Romaine
【Van den Keere】ST22, MA70
De Orthographica LiberſſM. A.
Cassiodorusſſ1579 (脚注)
38. Nompareille Romaine
【Haultin】MA65, MA67
Libri Regumſſ1557 (本文)
- B. イタリック体
- *1. Double Pica Italic 【Guyot】MA31
ColloquesſſG. Meurierſſ1557 (献辞)
2. Ascendonica Cursive
【Granjon】ST25, MA11
Eximiae, sanctae atqueſſ1570
(見出し)
3. Parangon Cursive 【Granjon】MA15
Grammatica HebraeaſſJ. Isaacſſ
1564 (献辞)
- *4. Texte Cursive
【Guyot】MA69, MA153
Les EphemeridesſſA. Mitzauldſſ
1555 (献辞)

5. Great Primer Italic
【Granjon】 MA81
 Poetica Horatti/J. Sambucus//
 1564 (献辞)
- *6. Pica (Mediane Cursive)
【Tavernier】 MA146
 La Institutione di una Fanciulla
 Nata Nobilmente/M. Bruto//1555
 (本文)
7. Mediane Cursive Pendante
【Granjon】 MA113
 L'Enseignement des Paroisses/F.
 A. du Hecquet//1562 (passim.)
8. Mediane Cursive Premiere Maigre
【Granjon】 MA133
 Observations/P. Belon du Mans//
 1555 (本文)
9. Identifiable with the Italique St.
 Augustin Premiere Granjon
【Granjon】 MA27a
 Les Secrets/Alexis Piemontois//
 1557 (本文)
10. Augustine Cursive **【?】**
 Arioste, premiere volume du Roland
 furieux//1555 (献辞)
11. Vraye Augustine Cursive
【Granjon】 MA128
 Secrets de l'Eternite/G. Le Fevre
 //1571 (p.346)
- *12. Litera Currens Ciceroniana
【Granjon】 MA37
 ?/Lucretius//1565 (Ad Lectorem)
13. Philosophie Cursive
【Granjon】 ST27, MA99
 Summa Doctrinae Christianae/D.
 P. Canisius//1566 (本文)
14. Garamonde Cursive Premiere
【Granjon】 MA54a
 Historia de Gentibus Septentriona-
 libus/Olaus Magnus//1558 (脚注)
15. Garamonde Cursive
【Granjon】 MA49
 Ex Antiquissimis/Horace//1579
 (passim.)
16. Long Primer Italic **【Tavernier】**
 Vocabulaire/G. Meurier//1557
17. Colineus Italique Poetique
【Granjon】 ST28, MA129
 Metamorphoses/Ovid//1556 (本文)
18. Colineus Cursive
【Van den Keere】 ST29, MA54b
 De Bello Civili/M. Annaeus
 Lucanus//1576. (本文)
19. Petit Texte Italique
【Granjon】 MA58a
 ?/Terentius//1560 (本文)
20. Jolie Cursive
【Granjon】 ST30, MA71
 Metamorphosion Lib XV/Ovid//
 1575 (脚注)
21. Nompaille Cursive
【Haultin】 MA66a
 Libri Regum//1557 (脚注)
- C. ブラック・レター (ゴシック体)
1. Gros Flamand Lettre
【Van den Keere】 ST78
 Proclamation of the City of
 Antwerp//1586 (イニシャル)
2. Canon d'Espagne
【Van den Keere】 ST32, MA136,
 MA137
 Petition to Don Luis de Requesens
 //1574 (タイトル)
3. Canon Flamand
【Van den Keere】 ST33, MA 4
 Psalterium//1571 (本文)
4. Moyen Canon Flamand
【?】 MA117
 Thesaurus Theutonice Linguae//
 1573 (標題紙)
- *5. Parangonne Flamande

- 【Van den Keere】ST34, MA13
Ordinancie ende Edict…//1573
(標題紙)
6. Texte Flamand 【?】 MA132
Donghevalueerde gouden…//1575
(見出し)
7. Texte Flamand
【Van den Keere】ST35, MA96
Thesaurus Theutonicae Linguae//
1573 (標題紙)
8. Augustine Flamande
【Van den Keere】ST36
Placcaet en Ordinancie…//1575
(標題紙)
- *9. Augustine Allemande
【H. Andreae】MA21
Imagines et Figuræ Bibliorum//
1580 (ドイツ語本文)
10. Mediane Flamande
【Van den Keere】ST37, MA42
Ordinancie ende Edict…//1573
(本文)
11. Pica Textura 【Tavernier】
Placcaet … verbot van egeene Waren
//1571 (?)
12. Philosophie Flamande
【Van den Keere】ST38, MA44
Ordinancie…op tstück vande
criminele Justitie//1570 (本文)
13. Philosophie Allemande 【?】 MA39
De Secreten/Alexis Piemontois//
1561 (本文)
14. An Early Sixteenth-Century Small
Pica Textura Type 【?】
Het Nieuwe Testament//1566 (本文)
15. French Long Primer Textura 【?】
Emblemata/J. Sambucus//1566
(本文)
- *16. Bougeoise sur la Mediane
【Van den Keere】MA64a
Donghevalueerde gouden ende
silveren Munte//1575 (本文)
17. Colineus Flamande
【Van den Keere】ST40, MA64b
Almanach/P. Hassardus//1576
(passim.)
18. Bible Flamande
【Van den Keere】ST41
Emblemata Adriani Iunii overgeset
in Nederlantische tale//1575 (本文)
19. Bible Flamande Fragment
【?】MA173b
De Secreten/A. Piemontois//1561
20. Nonpareille sur la Bible Flamande
【Van den Keere】ST42, MA68
Officium Diurnum ad Usus
Romanum//1570 (標題紙)
21. Nonpareil Textura 【Tavernier】
Waerachtighe ende Oprechte/P.
Canisius//1568 (標題紙)
- D. スクリプト体
1. Bastarde 【Granjon】ST45, MA109
Anatomie/Vesalius//1568 (見出し)
2. Courante sur le vray Texte
【Granjon】ST44a, b, MA108
Instruction et Maniere de Tenir
Livres/P. Savonne//1567 (passim.)
3. St. Augustine Littre Française
【Granjon】MA138
Nederduitse Orthographie/P. de
Heviter//1581 (pp. 5, 6, 110, 111)
4. Petite Augustine Française
【HamonのデザインでHaultinが彫っ
た】ST46, MA158
La Fontaine de Vie//1564 (本文)
- *5. Cicero Lettre Française
【Granjon】MA38, 107
L'A. B. C., ou Instruction Chres-
tienne pour les petits enfans//1558
(本文)